

令和3年度 県立麻生高等学校自己評価表

目指す学校像	確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力を育み、生徒一人一人の自己実現を目指し、全職員が一致協力して教育活動を展開するとともに、常に教育活動全体の改善・充実を図っていく創意と活力に満ちた学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
昨年度の学校評価アンケート（保護者・生徒）の結果を分析すると、学校全体では昨年度に引き続き「学習指導」の全ての項目で評価が向上している。ただ、1年生（現2年生）だけは学校評価が低下している。教師間で相互授業参観等を行い、ICT等を利用した分かりやすい授業を工夫することと生徒の学習意欲の向上に向けた更なる取り組みが必要である。 コロナ禍により、進路別見学会や特別講習会、キャリア教育講演会等の行事は実施できなかったが、各自で学習意識や進路意識を高めたことから、進学率が増加した。国公立大学の合格者は5名で、希望の大学進学は概ね実現できた。就職は状況変化に応じた指導をすすめて、内定率100%の達成を目指したい。 学校のホームページの定期的更新、学校案内ポスターの作成など広報活動を充実させ、またスクールバスの運行もスムーズにできた。 生活アンケートの結果より、本校生徒の身なりに関する自己評価では90%強の生徒がきちんとできていると回答しており、また挨拶が積極的に交わされている。この状況を維持・向上していくためにも生徒理解に努め、教員が生徒の模範となるよう行動することが重要である。 コロナ禍で文化祭等中止になった学校行事もあったが、球技大会は学年別に感染症対策を徹底しながら実施した。今後しばらくは、感染症対策を第一に考えながら、学校行事の計画を立てていくことが必要である。ボランティア活動も参加する機会がかなり減ったが、可能な限り参加を促したい。	I 学習指導の充実に努め、生徒一人ひとりに確かな学力を育む。	① 授業交換の徹底及び終始時刻の厳守により、授業時間の確保と適切な指導の強化を図る。 ② 日々の授業の他、ブライタイムや補習等を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得に努めるとともに、これからの時代に求められる読解力や思考力・判断力・表現力を養い、確かな学力の定着を図る。 ③ 生徒一人ひとりの能力・適性・進路希望等に対応して、個に応じた指導の充実を図ることで、分かる授業を実践し、学習意欲の向上に努める。 ④ 家庭学習の習慣化を図るために、週末課題等を通して各教科で連携し、学習指導の工夫・改善に努める。 ⑤ 生徒の確かな学力を育成するために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めるとともに、教科内で授業参観を積極的に行うなど、授業の質の向上を図る。	B
	II キャリア教育の推進と情報教育の充実を図り、時代の変化に対応できる能力を育成する。	① 早期から自分の能力・適性や進路について考え、進路を主体的に選択する能力を育成する。 ② 実践的・体験的な活動やキャリアカウンセリングを通して、望ましい勤労観・職業観を養う。 ③ 生徒一人ひとりの進路希望に応じた個別指導を充実させ、生徒の自己実現を図る。 ④ 教科指導にICTを活用し、学習に対する興味・関心・理解を促す。 ⑤ 情報モラル教育を推進し、情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度を育成する。	B
	III 全ての教育活動を通して、豊かな人間性を培う。	① 全職員の共通理解と協力の下、家庭、関係機関、諸団体との連携を密にして、生徒一人ひとりをよく理解し、個々に応じた生徒指導の充実を図る。 ② 指導が必要と認められる状況においても、決して体罰（暴言も含む）によることなく、生徒の規範意識や社会性の育成を図るよう、適切に指導する。 ③ 全ての生徒がいじめを行わず、また、いじめを認識しながらこれを放置することがないように、いじめの防止のための対策を講じ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を心掛ける。 ④ ホームルームや生徒会活動及び社会的活動を通して、人間としてのあり方生き方に関する教育を推進するとともに、生徒一人一人が自らの変容や成長を自己評価できるよう「キャリア・パスポート」を促進する。 ⑤ 広い視野から郷土・国家、国際社会を理解する教育を推進し、グローバルな視野を持ち、地域に貢献する意欲を持った人材（グローバル人材）の育成を図る。	A
	IV 健康・安全に留意し、強健な身体と不屈の精神を育てる。	① 学校教育活動全体を通して体育・スポーツ活動を充実することで体力の向上を図るとともに、変化の激しい時代を生き抜くために必要な強い精神力を涵養する。 ② 学校教育活動の一環として望ましい部活動の充実に努め、生徒の基礎体力を錬成する。 ③ 学校保健教育を充実し、健康の保持増進のための自己管理能力を育てる。 ④ 情操を高める学習環境を目指し、清掃の徹底と美化に努める。 ⑤ 学校環境の安全点検を強化するとともに、安全教育を実施し、事故の未然防止に努める。特に、スクールバスによる通学の利便性を図るとともに、交通安全の指導を充実して交通事故の撲滅を目指す。	A
	V 地域から評価され、地域とともにある学校づくりを推進する。	① 地域の人的・物的資源を活用し、家庭・地域と協働した特色ある学校づくりを推進する。 ② 地域の小中学校との連携と協働を進め、地域の小・中学生から選ばれる学校づくりに努める。 ③ 教育活動を積極的に情報発信し、地域から評価される学校づくりに努める。	B
	VI 業務改善を図り、教職員が適正に勤務する環境づくりに努める。	① 学校行事や部活動、学校運営等の見直しを図り、適正な時間内での業務運営に努める。 ② きんむくんによる勤務時間の管理を図り、超過勤務時間の削減に努める。	B

別紙様式 2 (高)

三つの方針			具体的目標	評価		次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」(スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)		意欲をもって学習や学校生活に取り組み、主体性や社会性を身に付け、社会のリーダーとして貢献できる人財	B	A	卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)		生徒の幅広い学習ニーズに対応した教育課程により、国公立大学進学、公務員内定などを目標に据えた進路希望の実現	A		教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)		学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自らの学習活動ばかりではなく、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒	A		入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像の明示
評価項目	具体的目標		具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上	漢字・語彙などの学習の基礎基本となる内容について、小テストを実施する。 I ②③	A	A	・ICTの積極的な活用を図る。 ・より一層基礎学力の定着を図る。 ・小論文指導の充実を図る。
		家庭学習の充実と習慣化	課題を提示し、家庭学習の習慣を定着させる。(提出率 90%以上) 定期考査や模試結果を活用し、生徒が自ら学ぶ姿勢を支援する。 I ①②③④	B		
		希望進路実現に向けた国語力の伸長	授業・定期考査・各種模試結果を分析し、指導方法を研究する。授業・課外・課題（自学）により生徒の総合的な学力と論理的思考力、表現力の向上を図る。 I ②③④⑤	A		
	地歴・公民	基礎知識の充実	基礎的・基本的な知識・技能の習得に努め、理解力不足の者に対しては各考査前に補講を実施する。 進学希望者へ課外授業の強化、充実を図り、センター入試、上級学校入試にも適応できる学力増進を目指す。 I ②③	B	B	・授業等での ICT の活用方法について創意工夫を心がけ、積極的に活用する。
			生徒の自己実現の支援	主権者教育を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、ICT の利用やグループワークの導入により授業改善に努めるなど実社会の適応をはかれる学習の取り組みを工夫する。 就職など、多様な進路を持つ生徒達へも課外などの実施で基礎的な学力向上を図る。 I ⑤Ⅱ④Ⅲ④⑤ I ②③Ⅱ①③		
		数学	基礎学力の向上	教科書・問題集の基本問題を繰り返し解くことによって、基礎学力・基本的な知識や技能の確実な定着を図る。 I ①③		
	論理的に思考・判断・表現する力の育成		授業で ICT を活用するなどして主体的・対話的な学習活動を行ったり、教科書・問題集の応用問題を解いたりすることによって、論理的に考え、理由を付けて説明することができる能力を育成する。 I ⑤	B		
	自主学習の習慣化		週末課題を課すことによって、自主的な学習の習慣化を図る。 I ②④	B		
	理科	基礎学力の向上	生徒の実態に合わせて、中学校の既習事項を踏まえつつ指導にあたる。また問題演習、学習課題を繰り返し行うことにより、基本的な学力の定着をはかる。 I ①②④	B	B	・ICT を効果的に活用した実践的な授業の実践を図る。 ・実験の実施回数の増加に努める。
		生きる力を支える確かな学力の育成	実験・観察により技能を習得させながら、事象を実証的・論理的に考え、事実に基づいて判断し、表現する力を培う。 I ②③⑤	B		
			ICT を積極的に利用し、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒の能動的な学習をサポートする。 I ②③⑤	B		
		自然の事物・現象を科学的に探究する資質能力の育成	生徒自身が調べるテーマを選択し、理科で学んだ科学現象を用いながらそれらの現象・事象が起こる理由を考える。 I ②③④Ⅲ⑤	A		
	保健体育	運動技能を高めて生涯にわたり運動に親しむ資質や能力の育成	球技：基本技能を身に付け、自他協力により安全にゲームが展開できるようにさせる。 I ②	A	A	・体育の分野での ICT の効果的な活用を図る。
			集団行動：公正・協力・責任の態度を育てる。 I ⑤	A		
			選択授業の展開：多様なスポーツとの関わりからそれぞれの生涯スポーツを獲得する。 I ③	B		
		生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力の育成	日常生活から健康問題を考える意識を持たせる。 健康的な生活習慣を身に付け、生活環境を守るための知識と能力を高める。 Ⅱ① I ②	A A		
	芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	教材教具を活用し、芸術文化をより深く理解し、愛好する心情を育てる。 I ②③Ⅱ④	B	B	・ICT の環境整備を図り、効果的な活用を行う。
		芸術の諸能力の伸長及び豊かな情操の養成	鑑賞活動を通して、自らの感性を磨き、個性を育む。 I ②③Ⅱ④	B		
			生徒一人一人の個性に応じた指導を行い、技術の向上を図る。 I ②③⑤	B		

別紙様式 2（高）

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題	
教科	外国語	基礎学力の向上と家庭学習の習慣化	小テスト等を利用して生徒の理解度を把握し、不十分な生徒を個別指導する。	I ②③	A	B	・授業等での ICT の効果的な活用を図る。 ・基礎学力と入試に対応した学力の養成を図る。
			予習復習や定期的な課題等を課して、家庭学習を定着させる。	I ③④	B		
		授業の創意工夫	ALT とのティームティーチングの授業を通してコミュニケーション活動の充実をを。	I ⑤	B		
			意欲・関心を高め、豊かな人間性を培えるような教材を精選する。	Ⅲ⑤	B		
			互いに授業を公開し、授業内容・教授法等について教科内で研究協議する。	I ⑤	B		
	家庭	基本的な生活力の向上	基礎的・基本的な知識・技能の習得のために、生徒の実態に応じた教材を作成する。	①②③⑤	A	A	・ICT の活用や実験・実習において効果的な活用を図る。
		学習環境の整備と事故防止の推進	実験実習時の身支度や手洗い等の指導を徹底し、衛生面・安全面に配慮させる。実習室の安全管理に努める。	Ⅳ③	A		
	情報	P C 技能の向上	文書作成及び表計算処理能力の向上に努め、検定合格による資格取得を目指す。	I ④Ⅱ④	B	B	・新教育課程への対応に努め、プログラミング実習について実践を図る。
		コミュニケーション能力の向上	プレゼンテーション等を行い、個人の考えや意図を相手に的確に伝える能力の向上に努める。	I ⑤Ⅴ③	B		
			電子メールやSNS の使用方法や注意事項を踏まえ実施し、情報交換の技能を習得する。	Ⅱ⑤	B		
情報モラルの理解と実践		著作権の尊重や情報発信にあたっての発信者の責任など、守るべき規則及びその背景について生徒に考えさせ、情報モラルの必要性の理解と実践を図る。	Ⅱ⑤Ⅲ⑤	A			
教務	授業時間の確保	授業開始・終了時刻を厳守する。	I ①	A	B	・新たな観点別評価の徹底を図る。 ・ICT 活用の中心となる部署として、環境整備、職員の研修に努める。	
		授業交換は単独授業では 100%実施し、同時展開の授業でも出来るだけ実施する。	I ①	A			
	カリキュラムマネジメントに基づく教育課程の編成・実践	現教育課程が生徒の実態に適しているか検討する。	I ②⑤Ⅲ⑤	B			
		教科のグランドデザインに即した資質・能力の育成を図る。	I ②③④⑤Ⅱ④	B			
	指導方法の研究・改善	生徒が主体的・対話的に学ぶ授業の指導方法について研究・改善に努める。	I ⑤	B			
		授業参観・職員研修の実施や ICT・グループワークの導入による授業の質の向上を図る。	I ⑤	B			
生徒指導	基本的生活習慣の確立	おはよう運動（登校指導）を通じて、挨拶の励行を図るとともに遅刻防止に努める。	Ⅲ①	A	A	・生徒の落ち着いた生活態度の継続を図る。 ・生徒のマナー、エチケット等の指導を継続し、身だしなみの徹底を図る。 ・より元気な挨拶の実施に向けた支援に努める。	
		全職員がチャイムで始まりチャイムで終わる授業を実践することで、生徒の時間厳守の行動を養う。	I ①	A			
	生徒理解	学校生活全般において生徒一人一人をよく理解し、適切な信頼関係を築く。適宜、個別面談・教育相談等を行う。	Ⅲ④	A			
	体罰によらない指導の徹底	指導が必要な状況においても、決して体罰によることなく、適切に指導する。	Ⅲ②	A			
	服装頭髮指導の徹底	全職員の共通理解の下、おはよう運動やさよなら運動（下校指導）及び年 5 回の服装指導を実施する。	Ⅲ①	A			
	規範意識の高揚	全校集会・学年集会・LHR・授業等を活用し、社会規範意識の高揚に努める。	Ⅲ⑤	B			
	いじめを許さない学校づくりの推進	休み時間や昼休みに教室巡回を行うなどして、生徒観察に努め、いじめの未然防止に努める。	Ⅲ③	B			
	交通安全教育の徹底	校外での交通指導を隔月 1 回実施するとともに、交通講話・バイク通学許可説明会・教習所入所説明会・バイク実技講習会等を通して、交通法規の遵守及び交通安全の意識の高揚を図る。	Ⅳ⑤	A			
		交通法規の遵守について、全校集会・学年集会・LHR を活用し、継続的な指導を行う。	Ⅳ⑤	B			
教室環境整備の徹底	掲示の工夫や放課後の教室の整理整頓等、学ぶ場としてふさわしい教室環境の整備を徹底する。	Ⅳ④	B				

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
進路指導	進学指導体制の充実	生徒一人一人、個に応じた進路指導・進路実現の支援体制の充実を図り、国公立大学 10 名、私立大学 150 名、就職希望者全員の合格・内定を目指す。 Ⅱ③	B	B ・進路実現に向けて、各学年との更なる情報共有を行い、早期からの進路に対する意識付けを図る。 ・進路指導に対して教員全員で取り組めるような指導体制の確立を図る。
	課外指導等の充実	進学希望者への平常課外や長期休業中の課外等に積極的に参加を促す。 Ⅰ②	B	
		平常課外、長期休業中の課外の充実を図り、授業と連動させることで学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。 Ⅱ③	B	
	進路講演会等の実施と進路意識の高揚	進路講演会等を通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。 Ⅱ②Ⅴ①	B	
		HR・総合的な探究の時間等を利用し、自己理解、職業・学部学科研究を行い、自己実現に向けた進路意識の高揚を図る。 Ⅱ①	B	
	進路指導内容・環境の充実	教員全員体制での面接指導により、面接試験に柔軟に対応できるように多面的な視点からの指導を行う。 Ⅱ③	B	
		進路希望に応じた校外模擬試験等を計画的に実施し、その結果を振り返りながら定期考査を含めて達成状況に応じた次の指導に活かす。 Ⅰ②	B	
		茨城大学等の大学説明会や見学会に積極的に参加させ、志望校決定の一助とする。 Ⅱ②	A	
		ICT の活用を通して、精選した最新の進路情報を提供し、進路実現に向けて適切に活用できるよう指導を行う。 Ⅱ④	B	
		3 年にわたる系統的かつ具体的な進路指導計画を策定する。 Ⅰ⑤	B	
		進路閲覧室・実現室の環境整備を行い、効果的で利用度の高い進路指導環境を整備する。 Ⅱ③	B	
	家庭・企業・大学との連携	出前授業、卒業生の講演会、ガイダンス等を実施し、進路情報の提供に努める。 Ⅱ①	B	
特別活動	社会性・人間性を高める活動への参加支援と「キャリア・パスポート」の推進	社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を促し、地域社会との交流を図る。 Ⅲ④⑤	B	A ・新型コロナウイルス対策に留意し、行事の計画を図る。 ・行事や部活動での生徒の主体的な活動を促し、生徒の自治的活動の浸透を図る。
		生徒の成長と自己実現につながるよう「キャリア・パスポート」への取り組みを充実させる。 Ⅲ④	A	
	人間的触れ合いを基盤とした自主的自治的活動の推進	球技大会や文化祭を通して生徒同士の触れ合いを図る。その際感染症対策に十分留意して計画を立てる。 Ⅲ④	B	
		ホームルームや生徒会活動を通して、自主的・自治的活動の活性化を図る。 Ⅲ④	B	
	部活動の活性化	部活動を通して、健全な身体的精神的成長を図る。 Ⅲ④Ⅳ①②	A	
保健安全	健康の把握と増進	性に関する講演会など、専門家による健康教育を実施する。新型コロナウイルス感染症予防対策に取り組む。 Ⅳ③	A	A ・学校保健安全計画に基づく活動に努め。新型コロナウイルス感染防止対策の徹底に努める。 ・ICT を活用した講演会等の実施を図る。 ・スクールカウンセラーの積極的な活用と相談活動の充実に努める。
		定期健康検診の全員実施に努める。 Ⅳ③	A	
	教育相談の充実	教育相談係やスクールカウンセラーを中心に全職員の協力で相談活動を充実させる。 Ⅲ①	B	
		スクールカウンセラーによる教職員研修を実施する。 Ⅲ①	A	
	安全教育の推進	防災訓練を実施し防災意識の高揚を図る。安全点検の実施で校内の危険予防を図る。 Ⅳ⑤	A	
		AED 講習会を実施し、緊急時に備える。 Ⅳ⑤	B	
	環境整備美化の推進	毎日の清掃指導の徹底やワックスがけの実施で校内美化に努める。 Ⅳ④	A	
		清掃用具点検を実施して、清掃活動の充実を図る。 Ⅳ④	A	
図書・情報	図書室の利用と読書指導の推進	広報活動を行い、図書室の利用促進および一人一人の読書量の増大に繋げる。 Ⅱ①Ⅲ⑤	B	A ・図書館の利用促進を図る。 ・迅速な HP の更新に努める。
	情報及び情報機器の管理	所有するハードウェア・ソフトウェア、およびデータの管理を厳に行う。 Ⅱ④⑤Ⅳ⑤	A	
	広報活動の充実	ホームページを充実させ、本校の教育活動を積極的に広報する。 Ⅴ③	A	
渉外	後援会活動の充実	役員と職員との連携を深め、総会などの事業について最善の形態を模索し、活性化が図れるよう努める。 Ⅲ①Ⅴ①③	B	B ・スクールバスの円滑な運行と保護者・地域社会との連携に努める。
	保護者・地域との連携強化	保護者と職員とが参加する研修や行事等について最善の形態を模索し、良好な関係の形成に努める。 Ⅴ①	B	
	生徒の通学や学習環境の充実	後援会が運営するスクールバスや空調設備などについて、適正および円滑な活用に努める。 Ⅳ⑤	A	

別紙様式 2（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
1 学年	目的意識を持った高校生活の確立	全生徒が部活動や課外授業へ積極的に参加する。	I ②IV②	A	・進路指導に対する意識の向上と探求活動の充実に努める。 ・落ち着いた生活状況の継続を図る。
		高校生活の目的意識を高め、充実した高校生活を送る。	II ①③	B	
	基本的生活習慣の確立	頭髮服装検査を徹底する。	III ①	A	
		挨拶を励行し、時間の厳守に努め、清掃を徹底する。	III ①	A	
	進路目標の早期明確化	進路達成プログラムを活用して自己理解や職業理解を深め、具体的な進路目標を持てるように促す。	II ①②	B	
	基礎学力の定着と進路を見据えた学習指導の充実	各教科で週末課題を提示することにより家庭学習（120 分以上）を充実させる。	I ④	B	
英検・漢検・数検等の資格取得を推進する。大学受験を意識して、全国模試に取り組ませる。		I ②	B		
2 学年	目的意識を持った高校生活の確立	部活動や課外授業への参加を奨励し、年間を通じて継続させる。	I ②IV②	B	・最高学年の意識を持たせ、具体的な進路について情報の収集に努め、早期の進路決定となるよう支援を継続する。 ・LHRや総合的な探求の時間を通してクラス経営の充実を図る。
		学校行事等への積極的な参加を促す。	III ⑤	B	
	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、時間の厳守、清掃の徹底を図る。	III ④	A	
		服装頭髮検査指導を徹底する。	III ①④	A	
	具体的な進路を見据えた学習	課外授業や講習会を充実させ、学力向上を図る。	I ②	A	
		週末課題やブライタイム等を活用しながら、基礎学力と家庭学習習慣の定着を図る。	I ④	B	
		早期に、志望進路を明確にさせる。	II ①②	B	
		英検・漢検等の資格取得を推進する。	II ①③	A	
3 学年	生徒個々に応じた自己実現の支援	進路に対する意欲喚起を図る。	II ①②③	A	・進路実現にむけて、生徒の意識を早い時期から高めるよう、創意工夫に満ちた行事や指導の計画の立案を図る。
		進路実現に必要な学力向上を図る。	I ②③II ③④	A	
		効果的な特編授業を実施する。	I ①③	A	
	個に応じた学習習慣の確立	学習面談指導を実施して、生徒の自主的学習を促し、家庭学習の充実を図る。	I ④	B	
		個に応じた指導を充実させ、多様な入試形態に応じた進路指導を図る。	II ①③	A	
	生徒指導の充実	正しい服装容疑の徹底と、規範意識の向上に努める。	III ①②	B	
		面談や声かけ指導により、問題行動の未然防止に努める。	III ①③④	A	

※評価基準：A（十分達成できた。） B（ほぼ達成できた。） C（やや達成できた。） D（あまり達成できなかった。） E（ほとんど達成できなかった。）